

華麗な人 karei na hito

# 聞こえなくても感じる



「結婚して移住した柏崎の海が大好き。夫や仲間と守りたい」＝新潟県柏崎市、松本敏之撮影



左耳

## 難聴克服 人命救助の王者

ライフセーバー 遊佐 雅美さん (40)

砂浜を駆け、20分先に立てられた ゴムチューブを取り合う競技「ビーチフラッグス」の王者、遊佐雅美さん。性難聴で聴力を失った。

本業は海の事故を防ぐライフセーバー。浜辺を見守り、救助を求める声を聞けば一目散に海へ。「助けて」を察知できなければ、取り返しがつかない。わずか4秒で勝敗が決まるビーチフラッグスも、スタートの笛にどれだけ早く反応できるかが重要だ。耳が不自由では仕事も競技もあきらめるしかない、と思った。

生活に支障をきたすことも少なくなった。左側の相手の話は唇の動きを読み取り、左後ろから何か近づいてきても感じて分かる。左耳を補うように、他の感覚が研ぎ澄まされていった。

日々の暮らしでも、左にいる人の声聞き取れず、左側後方から迫る車に気づけない。ふさぎ込む遊佐さんに、多くの励ましが届いた。「病気がなったのはしょうがないじゃん。付き合っていくしかないよ」。そう助言してくれたライフセーバーの仲間と、のちに結婚した。

ライフセーバーとしての理想は、水難事故を未然に防ぐこと。万一起きたら、一瞬でも早く駆けつけたらいい。いざという時に備え、ビーチフラッグスで瞬発力と判断力を鍛え続ける。「この競技の先に、助けを求める人の命がある」 (久永隆一)

取材後、バスに乗ろうとした私は、乗車券の売り場が分からずにうろたえる。すると、さきほど別れた遊佐さんが戻ってきて、売り場まで連れて行ってくれました。仕事を離れても困っている人を見越さないと、そんな人柄に触れました。遊佐さんにはライフセーバーとは別の顔も。日本ビーチ文化振興協会の理事として、海辺の安全教室などを開いて、全国の子どもたちに海の楽しさを伝えていきます。季節を問わず、海に親しむ文化が広がることを夢見て。

### 遊佐さんへ ありがとう

取材後、バスに乗ろうとした私は、乗車券の売り場が分からずにうろたえる。すると、さきほど別れた遊佐さんが戻ってきて、売り場まで連れて行ってくれました。仕事を離れても困っている人を見越さないと、そんな人柄に触れました。遊佐さんにはライフセーバーとは別の顔も。日本ビーチ文化振興協会の理事として、海辺の安全教室などを開いて、全国の子どもたちに海の楽しさを伝えていきます。季節を問わず、海に親しむ文化が広がることを夢見て。

きらめることを繰り返してはしないか。病氣と向き合う決心をして、10年6月の国内大会に挑んだ。結果は優勝。同じ年の全日本選手権は3位にとどまり、連覇はいったん途絶えたが、11、13年と3連覇した。病を境に、競技に対する姿勢が変わった。かつてはストイックそのものの。大会の直前は肉を遠ざけ、雨で練習できないとイライラした。今は天候や仕事で体が動かせなくても、休めということだと受け止める。「おおらかにになりました」